西宮市立甲子園浜小学校いじめ防止基本方針

西宮市立甲子園浜小学校

1 本校の方針

本校は、「笑顔あふれる学校」を学校教育目標として、学ぶ楽しさと心豊かな児童の育成をめざしている。

全ての児童が安全な環境のもと、安心して学校生活を送り、有意義で充実した様々な活動に取り組めるよう、いじめ防止に向け、日常の指導体制を整備し、いじめの未然防止を図りながら、いじめの早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合は適切にかつ速やかに解決するための「学校いじめ防止基本方針」を定める。

2 基本的な考え方

本校は、旧浜甲子園小学校、旧東甲子園小学校2校の統合により、平成9年に誕生した学校である。統合後も児童数の減少が続いたが、ゴルフ練習場と競輪場跡地の開発により児童数が増加し、一時は児童数800名を超える規模の学校となった。数年前より減少に転じ、現在は約600名の中規模校である。

開校当初より、地域に開かれた学校づくりを進め、校区が拡大されても、地域・保護者との連携を軸に教育を進めている。甲子園浜小学校教育連携協議会でも、「元気にあいさつができる子供」「自分で判断できる子供」をめざして、学校・地域・家庭が一貫したはたらきができるよう取り組んでいる。

いじめについては、「いじめは、どの学級にも学校にも起こり得る」という認識をもち、人権教育を基盤とした学級づくりを進めるとともに、豊かな心をもって、好ましい人間関係のもと、「いじめを生まない、許さない土壌づくり」に取り組むために、以下の指導体制を構築し、いじめの防止等を包括的に推進する。

3 いじめ防止等の指導体制・組織的対応等

(1) 日常の指導体制

いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、管理職を含む複数の教職員、心理等に関する専門的な知識を有するその他関係者により構成される日常の教育相談体制、生徒指導体制などの校内組織及び連携する関係機関を別に定める。

別紙1 校内指導体制

また、いじめは教職員や大人が気づきにくいところで行われ、潜在化しやすいことを認識し、教職員が児童の小さな変化を敏感に察知し、いじめを見逃さず、早期発見のためのチェックリストを別に定める。

別紙2 チェックリスト

(2) 未然防止及び早期発見のための指導計画

いじめ未然防止の観点から、学校教育活動全体を通じて、いじめの防止に資する多様な取

組を体系的・計画的に行うため、包括的な取組の方針、いじめ防止のための取組、早期発見の在り方、いじめへの対応に係る教職員の資質能力向上を図る校内研修など、年間の指導計画を別に定める。また、全教職員に法令の趣旨や法令に基づく対応を周知するよう研修の充実等を図る。

別紙3 年間指導計画

(3) いじめを認知した際の組織的対応

いじめの疑いに関する情報を把握した場合やいじめを認知した場合は、情報の収集と記録、情報の共有、いじめの事実確認を行い、迅速にいじめの解決に向けた組織的対応を別に定める。

別紙4 組織的対応

4 重大事態への対応

(1) 重大事態とは

重大事態とは、「いじめにより児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」で、いじめを受ける児童の状況で判断する。本校の場合、たとえば、身体に重大な傷害を負った場合、金品等に重大な被害を被った場合などのケースが想定される。

また、「いじめにより児童が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合と認めるとき」であるが、「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とする。ただし、児童が一定期間、連続して欠席しているような場合には、事案により学校が判断する。

また、児童や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申立てがあったときは、校長が判断し、適切に対応する。

(2) 重大事態への対応

校長が重大事態と判断した場合、直ちに、市教育委員会に報告するとともに、校長がリーダーシップを発揮し、学校が主体となって、いじめ対応チームに専門的知識及び経験を有する外部の専門家である保護司等を加えた組織で調査し、事態の解決に当たる。

なお、事案によっては、市教育委員会が設置する重大事態調査のための組織に協力する。

5 その他の事項

誰からも信頼される学校を目指している本校は、開かれた学校となるよう情報発信に努めてきた。いじめ防止等についても、地域とともに取り組む必要があるため、策定した本方針については、学校のホームページなどで公開するとともに、教育連携協議会、PTA各委員会、学級懇談会などあらゆる機会を利用して保護者や地域への情報発信に努める。

また、いじめ防止等に実効性の高い取組を実施するため、本方針が、実情に即して効果的に機能しているかについて、「いじめ防止対策委員会」を中心に点検し、必要に応じて見直す。本方針の見直しに際し、学校全体でいじめの防止等に取り組む観点から、取り組み状況等を学校評価の項目に位置づけ、定期的に点検・評価を行ったり、生徒の意見を取り入れるなど、いじめの防止等について生徒の主体的かつ積極的な参加が確保できるよう留意する。また、地域を巻き込んだ学校の基本方針になるように、保護者等地域からの意見を積極的に聴取するように留意する。